

住み続けたいと思える八千代市に

秋葉就一市長が初登庁



▲花束が手渡され、集まった支援者から「秋葉コール」が沸き起こりました

5月26日に行われた八千代市長選挙の結果、秋葉就一氏が2万2,126票を獲得し、第14代八千代市長に選ばれました。

5月28日の初登庁では、市役所玄関前に集まった市民や市職員に拍手で迎えられ、支援者からは「秋葉市長頼んだぞ、がんばれ」と声援が飛びました。続いて行われた就任式では市の管理職を前に「無駄なものは見直し、福祉が軸の市民が住み続けたいと思えるまちづくりを目指したい。財政健全化や子育て支援の拡大など、市民の皆さんと約束した「市民のための市政」を実現するため全身全霊で取り組んでいきたい」と、今後の八千代市政の運営について力強く話しました。

今号の紙面から

- ◆介護保険特集……………2～3
- ◆あなたの身近で  
“やっち”活動中…4～5
- ◆子ども医療費助成受給券  
の更新……………6
- ◆1%支援制度……………別冊

市長就任のあつち

皆さんとともに、誰もが住み続けたいと思えるまちづくりを目指します

八千代市長 秋葉就一

5月26日の市長選挙で第14代八千代市長に当選させて頂きました秋葉就一です。八千代市にお住まいの一人おひとり、住んでよかった「住み続けたい」と思えるまちづくりを皆さんとともにこなしてまいります。その前提として、これまで以上に開かれた公正な市政を実現します。

本市は、市制施行以来人口増加が続いてきましたが、過去2年は初めて減少しました。ただ、東葉高速鉄道が開通してからまだ17年と、依然としてポテンシャルが高い自治体です。その八千代市をもっと「住み続けたい」「住んでみたい」と思えるまちにするため、私がこのたびの選挙で掲げた中心テーマは、財政健全化と市民サービス拡大を両立させたまちづくり、でありました。

市民サービス拡大の軸は、子育て支援の拡充と教育環境の整備充実であり、それにより子育て世代を応援し、現役世代の人口を増やしていく。その効果は当然、高齢者支援や福祉、商店街振興など、他の諸課題にも充ててまいります。

他方で、市制施行後46年が経過した本市には、最初の人口急増期に建設された公共施設(学校、保育園、図書館、公民館など)が数多く存在しており、一部完了とは言え、耐震化と老朽化対策は急務です。しかしながら、本市の財政状況や国の制度変更などで、短期間でその全てに対応していくのは困難な状況です。この状況に対し、行政だけで物事を決めていくのではなく、情報公開、情報提供した上での市民参加型市政運営を強化し、地方分権社会における公共サービスの革新と拡充を市民自治の理念の下に推進してまいります。

これからの4年間、どうぞよろしく願っています。

図書館等の現状と今後に関する説明会

本市の4図書館のうち特に3館については、老朽化、狭小化、構造的な制約などから、その役割を果たすことが難しくなってきました。このことから、地域図書館及び(仮称)八千代市立中央図書館・市民ギャラリーについて、今後の図書館行政に役立てるため、市民の皆さんのご意見をいただく説明会を開催します。市長も参加します。

▼日時 7月7日(日)午後2時～3時30分(午後1時30分から受け付け) ▼場所 八千代台東南公共センター ▼定員 150人(事前申し込み不要。直接会場にお越しください) ▼問い合わせ 生涯学習振興課(48-10309) ※駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください